

言語活動の充実に関する実践事例

学校名(尾道市立久保中学校)

- ① 教科等 道徳 ② 学年 第3学年
 ③ 主題名(資料名) 真の友情(2-(3)友情)
 (「赤い傘」 自作資料)
 ④ 本時の目標 ある幼なじみ三人の姿を通して、自分の生活体験を想起しながら「真の友情」について深く考え、互いに心から信頼できる、より豊かな人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を育てる。
 ⑤ 学習の流れ(1時間目/全1時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価の観点 (評価方法)
1 効果音から情景を想起する。 2 資料を読む。 3 「本当の友達」という言葉に胸が高鳴る麻衣の心情に寄り添いながら考える。 ○なぜ麻衣は顔が赤くなったり、胸が熱くなったりしたのだろうか。	・ 蝉の鳴き声、下校放送、何人かの足音と話し声を放送し、資料の導入場面へといざなう。 ・ 「本当の友達」という言葉に喜ぶ麻衣の心情を共感的におさえる。 ・ 麻衣が携帯電話をもって以来、関係が希薄になっていった由美の心情も対照的に触れておく。	
4 由美の「赤い傘」に心動かされた麻衣の姿から考える。 ◎なぜ「(遠くに見える由美の姿が)麻衣には大きく映った」のだろうか。 5 自分の生活を思い浮かべながら考えを深め、学習をまとめる。	・ 「麻衣」の心の揺れについてワークシートで考えをまとめさせ、自分の考えを明らかにさせる。 ・ 話し合いの中で、自分や他の生徒の様々な考えに触れ、「本当の友達」とは何なのかという、ねらいとする道徳的価値についての考えを深めさせる。 ・ 自分の生活体験を思い起こさせながら、自己内対話をさせることで、「真の友情の在り方」や「本当の友達」について、自分とのかかわりで深く考えさせる。	・ 真の友情や友の尊さについて、自分とのかかわりでとらえ、考えを深めることができたか。 〔主人公の心情についての思考・表現〕(行動観察・発言・ワークシート)

「言語活動の充実」

設定した言語活動を通して育てたい力

- **自分の意見や考えの根拠を明確にし、他者と比較しながらねらいとする道徳的価値について深く感じたり考えたりすることができる。**

言語活動の充実のための指導の工夫

- 「自分の意見や考えとその根拠」が明確になり、「他者の意見や考え」と比較できるようワークシートの形式を工夫する。
 ○ ワークシートに記入したり、自己内対話をしたりする時間を十分確保し、自分自身の感じ方や考え方を言語化し明確にするよう働きかける。